

敷料散布を短時間で作業を効率的に

■ 飼養形態

導入前 導入後	労働力 (雇用人数)	飼養頭数		飼養形態
		経産牛	育成牛	
令和3年	6名(3名)	170頭	100頭	TS
令和3年	6名(3名)	170頭	100頭	FS



■ 農場内で利用している機器

- 敷料散布機 圃場管理システム (TMR センター)

■ 導入した目的と効果が上がった点

《目的》新築フリーストール牛舎の稼働に合わせて、敷料散布作業の軽減を図るため。

《効果》導入前は手押しワゴンで散布したが、牛舎内の往復回数が多く、スコップ1杯でベッド3つ分の散布量であり手間がかかった(ベッド数75頭×2列)。導入した機械はカンナくず、もみ殻、消石灰を混ぜて散布可能なため。大幅に時間短縮が出来た。

■ 導入した機械の台数、価格など

導入台数：1台	導入年：令和3年	導入価格：約300万円
保守点検・修理費：まだ発生していない。ベアリング、チェーン、ベルト交換が今後必要と思われる		

■ 労働負担軽減の程度、利用方法

	導入前	導入後
敷料散布頻度	3~4日に1回	3~4日に1回
労働の変化 (散布作業時間) (労働人数)	1時間以上	20分/日程度(散布時間は10分)
	1名	1名
時間の使い方の変化	ほかの飼養管理全般にかかる時間ができ、労働時間の短縮につながっている	

■ 移行時に準備・用意したこと

- ・敷料保管庫と牛舎までの作業動線を短くした。

■ 利用上、工夫している点(機能の使いこなし術など)

- ・朝の作業を搾乳→給餌→敷料散布とすることでベッドが空の状態での敷料散布を効率的に行っていること。また、この時間に牛の授精を行い立ち会い時の時間ロス軽減も図っている。

■ 今後、導入を検討する方々に向けたアドバイスなど

- ・ベッド管理の作業負担軽減に相当役立っている。
- ・搾乳ロボット導入農場では、吊り下げ式敷料散布機の導入も良いかもしれない。

■ 導入前後の生産性の変化

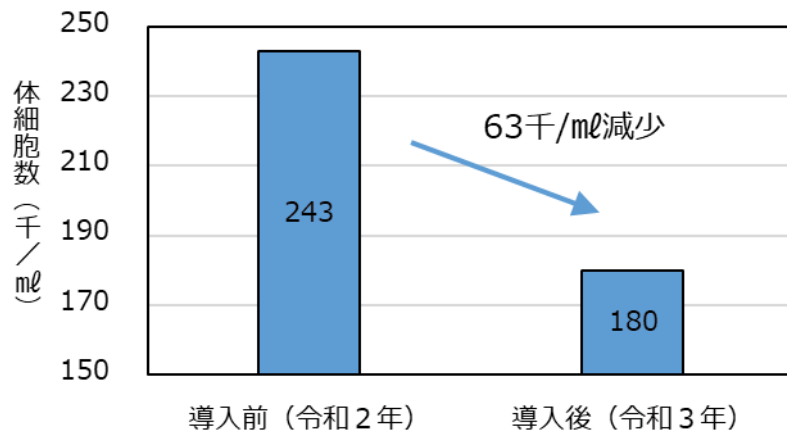


図1 導入前後の体細胞数の変化

■ 機器の使用状況



写真1 敷料散布前の牛床



写真2 敷料散布作業の様子



写真3 敷料散布バケット内部



写真4 敷料散布後の牛床